

WHOグローバルフォーラム： 高齢者のためのイノベーション

2013年12月10日～12日（兵庫県神戸市）

レポート： 要旨

Report

WHO Global Forum on Innovations
for Ageing Populations

10-12 December 2013 Kobe, Japan



WHOグローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション

2013年12月10日～12日（兵庫県神戸市）

レポート：要旨

背景

人口の高齢化は、今や世界的な現象となっている。これまで、比較的先進国で高齢化が進んでいる事実は広く認識されていたが、実質的には、現在、あらゆる社会において高齢化のペースが加速しつつある。これから40年のうちに、発展途上国における高齢者数は、先進国のあらゆる年齢層を合わせた総人口を超える見込みである。つまり、今後、低・中所得国における高齢者人口は増加の一途をたどり膨大化していくとみられており、やがては、世界中の高齢者の約80%が発展途上国で暮らすことが予測されている。

低・中所得国は、より複雑な高齢化の状況に直面している。これらの社会で高齢化が進むと、感染性疾患や寄生虫性疾患の問題に加えて、非感染性疾患（NCD）や障害者の増加にも同時に対処しなければならなくなる。さらに、これらの社会では、より若年で非感染性疾患を発症することが多くなり、非感染性疾患やそのリスク要因についての知識不足により、発症に際して疾患への管理や治療がより難しくとなるのが懸念される。資源の乏しい環境にあること、及び、貧困のために、加齢に伴って生じる健康問題への対処が、家族にとっても、また保健制度にとっても、より困難になると考えられる。

目的

2013年に世界保健機関（WHO）は「WHOグローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション」を開催した。このフォーラムは、資源の乏しい環境において低コストで高齢者のニーズに応えるという課題に取り組むために、幅広い関係者が情報交換を行うことのできるよい機会となった。3日間のグローバルフォーラムには21ヶ国から170名を超える参加者が出席し、以下の目的に沿って活発な討議が展開された。

- 高齢者のための技術的・社会的イノベーションに関する情報、主な実践例からの教訓、保健制度の研究についての意見交換
- 成功事例からの知見や解決策ならびにイノベーション向上についての発表
- 今後、WHOとそのパートナーが高齢者のためのイノベーションを支援する上での主要な優先課題の特定

WHOグローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション

2013年12月10日～12日（兵庫県神戸市）

成果

グローバルフォーラムは、高齢化現象の新しいエビデンスと、費用対効果が高く測定可能な最新の技術的・社会的イノベーションとを結びつけて議論する、初めての機会となった。特に、資源の乏しい環境や国々における高齢者の保健と福祉に共通の関心を有する幅広い部門や関係機関から、エビデンスが集められた。提示されたデータを取りまとめることで、イノベーションに対する差し迫ったニーズを形作るいくつかの重要な流れが明らかとなった。第一に、低・中所得国の高齢者人口は程なく膨大化し、感染性疾患や寄生虫性疾患だけでなく大規模な非感染性疾患の問題が生じることにより、二重の難題に直面することが考えられる。第二に、寿命が延びる一方で疾病や身体障害の問題が増加し、より若い年齢層にも影響が及ぶことから、寿命と健康寿命との差が広がることが考察される。身体機能や認知機能低下の問題も増幅するであろう。その結果生じる障害や疾病の多くは、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ実現のために重要な予防医療、保健のためのライフコース・アプローチ、教育などによって予防可能であり、少なくとも進行を遅らせることができる。高齢化の影響は、保健制度のための資金調達や社会のより広範な経済活動にも波及することから、変化するニーズに応じた調整が必要である点で構造的な打撃を及ぼしうるが、それは壊滅的なレベルには届かず、克服も可能であると考えられる。

フォーラムの参加者により、高齢者の健康と自立性を支援し、その結果として生活の質を向上させ、健康を改善し、高齢者や介護者の生活や社会全体についてもプラス効果が期待できるイノベーションが提示された。資源の乏しい環境で高齢者の健康を診断し管理するために、最先端の技術から、高度技術を要しない簡単な手法によるものまで、様々なセッションが開催されるなか、多岐にわたるイノベーションの事例が発表された。また、治療や支援システムの改善と費用の軽減を可能にするための新しい見解も示された。

グローバルフォーラムの議論を通して、発展途上国の拡大する高齢者人口にとって、イノベーションを実現するための、また、今後、イノベーションが適切かつ低コストで利用者を受け入れられやすく、誰もが利用可能で安全かつ効果的なものにするための、最適な方法について焦点があてられた。これらの要件を満たすためには、高齢者のニーズや好みを特定し、複雑にもつれあった保健課題や社会問題を解きほぐし、この重要な情報をイノベーションと政府の政策に還元することが求められる。参加者は、新たなイノベーションの指針について、また、小さなアイデアから始めて最終的に利用者たたる高齢者の利益となるまでに発展させたイノベーションの事例について討議した。製品を市場に出し、必須の出費と資金調達を確実にやり、保健についてプラスの効果をもたらすために必要となる、重要な法規制の積み重ねと評価についての議論も行われた。

WHOグローバルフォーラム：高齢者のためのイノベーション

2013年12月10日～12日（兵庫県神戸市）

将来に向けて

グローバルフォーラムは、資源の乏しい環境で暮らす高齢者に対して目下生じつつある保健課題や社会問題について、情報を共有し、議論を行い、新しい意見を生み出すとともに、これらの課題を解決するためのイノベーションを発展させ、応用し、強化するための効果的な機会となった。しかし、為すべきことは山積している。高齢者にとりわけ焦点をあてたイノベーションはほとんどなく、また、こういった条件の下で、低コストで誰でも利用でき、受け入れられやすく、持続可能であるようなイノベーションも非常に少ないというのが現状である。

グローバルフォーラムでは、提案された様々なイノベーションを用いることで、前述のような難しい要件にも応えうることが確認された。WHOがグローバルフォーラム開催で意図したことは、イノベーションの最初の段階を支えることであり、可能であるならば新たなイノベーションを実現に導くことにある。WHOは、今後とも、イノベーターや開発者、政策立案者たちが人口動態や保健、経済についての最新のエビデンスを容易に入手できるよう環境整備を継続する。また、フィードバック・システムを構築し、利用者のデータが研究者にフィードバックされ、そこから得られたデータを基にして科学のニーズやギャップに対応すべく働きかける。さらには、部門や官民の違いを超えた相乗効果や機会を特定するため、従来からの関連諸機関ならびに新しいパートナー機関の双方をつなぐ新たなネットワークを形成すべく活動を継続する。次回のグローバルフォーラムまでの期間は、WHOと関連機関が、エビデンスを補い、イノベーションを刺激し促進するために必要となるツールやその他のインフラを構築するための貴重な時機となるであろう。

* * *

WHO 健康開発総合研究センター（WHO 神戸センター・WKC）

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1

I.H.D. センタービル 9階

電話: (078) 230-3100

FAX: (078) 230-3178

電子メール: wkc@who.int

URL: http://www.who.int/kobe_centre/

